

診療所だより

お問合先

東栄診療所 0536-79-3311

『インフルエンザ注意報』が発令されました！

愛知県では県内の医療機関を対象としてインフルエンザについての発生動向を調査しています。2023年1月に入りインフルエンザ患者の報告が増え、2023年1月19日に、愛知県全域に『インフルエンザ注意報』が発令されました。

東三河北部ではまだ少ないですが、都市部での拡大に伴い、広がってくるものと思われます。予防と早めの治療に心がけ、感染と重症化を防ぎましょう。

《具体的な予防対策》

- ・症状がある場合は、マスクを着用するなど「咳エチケット」を心がけましょう。
- ・外出後等には、石けんで手を洗いましょう。
- ・室内では加湿器等で適度な湿度を保つようにしましょう。
- ・十分な休養とバランスの取れた食事を心がけましょう。
- ・インフルエンザが流行してきたら、人混みや繁華街への外出を控えましょう。

帯状疱疹(たいじょうほうしん)ワクチンについて

新型コロナウイルス感染症の流行により、ワクチン・予防接種について関心を持った方も多いのではないのでしょうか。今回は、ワクチンで予防可能な病気として、帯状疱疹を取り上げます。

帯状疱疹は、水ぼうそうのウイルスによって引き起こされる病気です。水ぼうそうになると、ウイルスは体の中（主に神経の中）に潜伏し続けます。水ぼうそうになった直後は、体に免疫力が備わっていますが、加齢、病後、ストレスなどが原因で免疫力が低下すると、潜伏していたウイルスが再活性化し、帯状疱疹を引き起こします。50歳以上で発症率が高くなり、日本人では80歳までに3人に1人が帯状疱疹になるといわれています。

帯状疱疹になると、皮膚に赤み・水ぶくれを伴う発疹が帯状にでき、多くは強い痛みを伴います。発症する場所によっては、眼や耳の症状や、腕が上がらなくなるなどの麻痺症状が出る方もいます。

<裏面に続きます。>

また、皮膚の症状が治ってもひどい痛みが長引く、「帯状疱疹後神経痛」を2割近い方が発症するとされます。帯状疱疹の治療にはウイルス増殖を抑えるお薬や、外用薬などがありますが、治療を行っても合併症や後遺症がでる方もおり、ワクチンによる予防が有効です。

帯状疱疹のワクチンは、50歳以上の方で使用でき、水ぼうそうでも使用される生ワクチンと、新しく開発された不活化ワクチンがあります。新しいワクチンの方が有効性は非常に高く、90%以上の発症予防効果があるとされています。ワクチンには、有効性・副反応・接種費用などのちがいがありますので、興味のある方は診察時にお気軽にご相談ください。

● 2月のコロナワクチン接種日程（完全予約制）

月曜日 6日 13日
木曜日 16日
金曜日 3日 10日 17日

- ・役場より送付された予約票で日時をご確認ください。
- ・接種会場は東栄ひだまりプラザ会議室で、東栄保健福祉センター玄関からお入り下さい。

● 2月の予定

精神科 3日（金） 17日（金）
腎臓内科 21日（火）
日曜外来 12日（日）
午後整形外科 6日（月） 13日（月） 20日（月） 27日（月）
 3日（金） 17日（金）

東栄診療所からのお知らせは“とうえいチャンネル”又は“東栄町ホームページ”をご覧ください。